

中学校
教授用資料

中学校 音楽科における学習指導・ 学習評価の進め方

はしがき

本冊子は、平成 29 年 3 月に告示された中学校学習指導要領の改訂内容を踏まえ、中学校の音楽科における学習指導・学習評価の進め方について、副島和久先生に書き下ろしていただいたものです。二次元コード、URL へのリンクによって詳細な情報にアクセスすることができますので、ぜひご活用ください。

CONTENTS

1 中学校音楽科教育がめざすもの	3
2 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	4
3 指導と評価の一体化を図る学習評価の進め方	5
4 授業事例にみる学習指導と学習評価の実際①(A表現領域 歌唱分野)	6
5 授業事例にみる学習指導と学習評価の実際②(A表現領域 創作分野)	9
6 授業事例にみる学習指導と学習評価の実際③(B鑑賞領域)	12
7 まとめ	15

副島和久 (そえじま・かずひさ)

佐賀市立金立小学校 校長

1987 年に佐賀大学教育学部を卒業し、佐賀県内中学校 2 校で教諭として勤務した後に、佐賀大学教育学部附属中学校に 10 年間勤務する。その間、2002 年から 3 年間、研究主任を務める。その後、佐賀県教育センターに勤務し、2010 年から 3 年間、研究調査担当係長を務める。県内中学校で教頭として勤務した後に、佐賀県教育センター研究課長、県内小学校で校長として勤務した後に、同副所長、その後、太良町立多良小学校校長を経て、現職。現在は、佐賀県音楽教育研究会会長、佐賀県合唱連盟会長、佐賀県吹奏楽連盟副会長。

その間、

中学校学習指導要領（第 8 次改訂）解説音楽編作成協力者

評価規準、評価方法等の工夫改善に関する調査研究協力者 中学校 音楽（平成 22・23 年）

平成 25 年度 中学校学習指導要領実施状況調査問題作成委員会委員（音楽）

平成 25 年度 中学校学習指導要領実施状況調査結果分析委員会委員（音楽）

中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 芸術ワーキンググループ委員

学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等（第 9 次改訂）協力者

評価規準、評価方法等の工夫改善に関する調査研究協力者 中学校 音楽（平成 31 年）
を務める。

著書に『平成 29 年版 中学校新学習指導要領の展開 音楽編』（編著・明治図書）

『指導と評価がつながる！ 中学校音楽授業モデル 第 1 学年』

『指導と評価がつながる！ 中学校音楽授業モデル 第 2・3 学年』

（伊野義博氏と共に編著・明治図書）

他、執筆原稿多数。

1 中学校音楽科教育がめざすもの

1 義務教育の集大成

ご存じの通り、中学校の3年間は義務教育9か年を終える3年間であり、子供たちは身に付けるべき資質・能力を着実に習得して、その後の進路へと進むことになります。それでは、中学校の音楽科において、身に付けるべき資質・能力とは一体どのようなもののでしょうか。それらを身に付けさせることが、教科としての音楽科の存在意義でもあり、私たち音楽科教師の存在意義といっても過言ではありません。

私たちの身近な生活は音や音楽で溢れています。地球上には数えきれないジャンルの音楽が存在し、また、今も毎日、新しい音楽が生み出されています。そして、私たちの生活も音や音楽とは無縁ではなく、多くの場面で様々な関わりをもっていることと思います。そのような音や音楽と豊かに関わり、音楽によって自らの生活を明るく潤いのあるものにするための術を身に付けるのが義務教育における音楽科教育の意義の一つではないかと思えます。多くの子供たちが「学校で音楽を学ぶ」という経験を中学3年で終えるという現実からも、中学校における音楽科教育は義務教育の集大成でありたいものです。

2 学習指導要領を読み解くこと

平成29年告示の学習指導要領が全面実施となってから久しく経ちますが、皆さんの学校における音楽科の授業はその趣旨を具現化したものとなり得ているのでしょうか。「学習指導要領」とは所詮、紙の上に記されたものであり、その内容をしっかりと理解し、「授業」という形で子供の学びに落とし込んでいく教師がいなければ、絵に描いた餅にすぎません。学校現場では、少しずつその趣旨が理解されてきているようにも思えます。当然、盲目的に学習指導要領に従うのではなく、クリティカルな目で学習指導要領を読み、その課題や改善点等について考えていくことも必要であると思えます。それが、次回改訂の方向性とも関わってくるのではないかと思えます。いずれにしても、私たちには、公教育に携わる音楽科教育のプロフェッショナルであるという自負をもって、しっかりと学習指導要領を読み解き、その趣旨を「授業」や「指導」という形で子供たちの学びの中で実現していくことが求められています。

3 音や音楽、音楽文化と豊かに関わること

前述の学習指導要領（平成29年告示）の教科の目標（中学校）[リンクA](#)では、その柱書の中に、「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を・・・育成することを目指す」と記されています。これが学習指導要領における中学校音楽科教育の目標であり、我々がめざす方向性であると思えます。子供たちが、大人になっても自らの意思で音や音楽、音楽文化に関わっていくことができるようにすることは、子供たち一人一人の将来の幸せや豊かな人生に寄与することにつながると思えます。さらには、音楽や音楽文化の継承、発展、創造という視点においてもとても重要なことであると思えます。子供たちが、「歌う」「楽器を演奏する」「音楽をつくる」「音楽を聴く」などの様々な関わり方を通して、生涯にわたって音楽と関わってくれることを願ってやみません。

リンクA



2 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

1 授業改善を図るために、教師に必要な要件は？

私たち教師は、普段の授業を不断に見直し、日々の授業改善を怠らないことが大切です。では、授業改善を図るために、教師に必要な要件としてはどのようなことが考えられるでしょうか。ここでは、大きく3点を挙げたいと思います。

①育成すべき資質・能力についての正しく確かな理解

音楽科で育成すべき資質・能力は何かということについての理解が必要です。まずはどのような力を育成したいかというゴールを明確にすることが大切なのです。当然、公教育である以上、それは学習指導要領の目標、内容に沿ったものであり、常に最新のものに更新されていなければいけません。個々の教師のこれまでの経験や信念によるものも大切ではありますが、それだけではいけません。

②授業を見る目、子供を見る目を養うこと

子供の学びの内実を見取ることができる目を養うことが必要です。言い換えれば、①で明確にした育成すべき資質・能力が本当に身に付いているかを見極める力と言えましょう。そして、最も大切なことは、その子供の学びの内実を自らの指導と関わらせて考えることができるということです。

③授業改善の視点についての理解

私は「授業の質的改善」という言葉をよく使います。それは、新しい指導法などを積極的に取り入れるようなことだけではなく、今、行っている指導方法や学習方法、学習形態などが本当に子供の資質・能力の育成に結び付いているかをしっかりと見極め、結び付いていなければ結び付くように軌道修正を行うということです。つまり、日々の授業の質を向上させることが、「授業の質的改善」といえるでしょう。そして、その改善のためには「主体的・対話的で深い学び」が実現できているかどうかという視点が大切です。このことについては、次に述べたいと思います。

2 手立てとしての主体的・対話的で深い学び

「主体的・対話的で深い学び」ということについては、学習指導要領の総則や各教科においても示されています。[リンクB](#) ここで大切なことは「主体的・対話的で深い学び」を実現すること自体が目的ではなく、そのことを手立てとして、音楽科で育成すべき資質・能力を確かに身に付けることができるようにすることが重要な目的であるということです。つまり、「主体的・対話的で深い学び」は私たち教師の日々の授業を改善していく際の視点であり、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」はそれぞれに関わりながら、一体的に実現していくものであります。[リンクC](#)

その中で、「主体的な学び」のキーワードとしては、「学びの対象への興味・関心」「自己のキャリア形成との関連付け」「見通し」「粘り強い取組」「振り返り」などが挙げられます。また、「対話的な学び」のキーワードとしては、「自らの考えを広げたり深めたりすることができているか」ということ、そして、「深い学び」のキーワードは、「音楽的な見方・考え方を働かせる」ということです。

これらのことについては、小学校の教授用資料「音楽科における学習指導・学習評価についての考え方」に詳しく説明しているので、ぜひ参照してください。[リンクD](#)

リンクB



リンクC



リンクD



3 指導と評価の一体化を図る学習評価の進め方

1 学習評価についての考え方

中学校では、学習評価というと、観点別評価のABCをいかに適正に評価するかということや、その観点別評価をどのように評定に結び付けるのかということに関心が集まりがちです。その評価結果が、上級学校への進学に伴う資料として活用されている現実などを考えるとそれはそれで大切なことではありますが、このことのみを学習評価と捉えてしまうと学習評価の本質を見失うこととなり、困ったことになるのではないのでしょうか。

学習評価については、「何のための評価であるか」ということが重要であり、そのために、どのように学習評価の充実を図るのかということについては、学習指導要領の総則の中でも示されています。また、学習評価改善の基本的な考え方については、平成31年3月に示された通知の中で、「①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと ②教師の指導改善につながるものにしていくこと ③これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと」と示されています。

リンクE つまり、評価が「評価のための評価」となるのではなく、子供たちの学習改善、教師自身の指導改善に資するものとなってこそ、その意味を成すということであり、そのことが「**指導と評価の一体化を図る**」ということになるのです。 **リンクF**

リンクE



リンクF



2 「記録に残す評価」と「指導に生かす評価」

一言に学習評価といっても、その目的は様々であり、例えば、観点別に設定した評価規準に基づいて、題材における学習の達成状況を判断するために行う「**記録に残す評価**」や、「**記録に残す評価**」を行う際に（限りなく）全ての子供たちを、少なくとも「おおむね満足できる」状況（B）と判断できるようにするために、適宜、評価をしながら、その評価結果に基づき指導を行っていく「**指導に生かす評価**」などが考えられます。

「**記録に残す評価**」は、題材などのまとまりの中で、評価場面や評価方法を工夫して、子供一人一人の学習の過程や成果を適正に評価することとなります。あくまでも、指導を行っている教師が評価も行うという負担を考えると、評価の場面や回数が多ければよいというわけではありません。また、歌唱や器楽における「**技能**」のように、子供の行動を観察したり演奏を聴取したりするなど、どうしても、**授業の中で評価**をしないといけないこともあれば、例えば、「**知識**」や「**思考・判断・表現**」のように、ワークシートの記述などを見て、**授業後に評価**できることもあります。さらには、「**行動観察**」などの授業の中で行う評価方法と「ワークシートの記述」などの授業後に行う評価方法を補完的に取り扱うことも考えられます。大切なことは、教師が無理なく、それでいて個々の子供を確実に見取ることができるように、実施可能な評価計画を立案し、それに基づき、確実に評価を行うことであり、そのことにより、信頼性、妥当性が高い評価結果が得られることだと思います。

また、「**指導に生かす評価**」は、個々の教師が日常的に行っていることであり、書き出そうとすれば、枚挙に暇がありません。しかしながら、「**指導に生かす評価**」とそれに基づく指導を確実かつ丁寧に行うことで、「**記録に残す評価**」を行う場面において、（限りなく）全ての子供たちを、少なくとも「おおむね満足できる」状況（B）と判断できるようにする、つまり、子供たち一人一人が、題材で身に付けるべき資質・能力を確かに身に付けることができるようにすることが、私たち教師の仕事ですので、そのことをしっかりと心に留めておきたいものです。



1. 題材 「情景を思い浮かべながら、言葉を大切に歌おう」(学習目標)
2. 教材 「夏の思い出」 江間章子 作詞／中田喜直 作曲 (「中学生の音楽2・3上」 p.18～23)

3. 題材の目標

- (1) 「夏の思い出」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (2) 「夏の思い出」の旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
- (3) 「夏の思い出」の歌詞の内容、旋律と強弱との関係に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、日本の歌曲に親しむ。

4. 学習指導要領の内容との関連

A表現 (1) 歌唱 ア、イ(ア)、ウ(ア)

〔共通事項〕 ア 音楽を形づくっている要素 旋律、強弱

イ 用語や記号 *dim.* テヌート フェルマータ *pp*

5. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 「夏の思い出」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p>	<p>思① 「夏の思い出」の旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。</p> <p>思② 「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態 「夏の思い出」の歌詞の内容、旋律と強弱との関係に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

●評価規準設定のポイント

「思考・判断・表現」の観点の評価規準は「『夏の思い出』の旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、『夏の思い出』にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。」となるが、「知覚・感受し、その関わりについて考える」場面と「歌唱表現を創意工夫する」場面が異なる場合には、上記のように**思**①と**思**②と2つに分けて設定することも考えられる。

6. 指導と評価の計画（全2時間）

	●学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ◆学習評価に係る留意点	評価		
			知・技	思	態
1	<p>●「夏の思い出」の歌詞の内容や曲想に関心を持ち、旋律や強弱など音楽の特徴を捉え、曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱音源を聴き、気付いたことや感じたことを自由に話し合う。 ・「夏の思い出」の歌詞を音読したり、歌ったりしながら、歌詞が表している情景や心情、曲の雰囲気についての自分の考えをワークシートに書く。 ・ワークシートに書いたことを学級全体で発表し合い、よいと思った内容はワークシートに書き加える。 ・旋律や強弱に着目して「夏の思い出」を歌い、捉えた音楽の特徴をワークシートに書く。 ・作詞者、作曲者のことについて知り、歌詞の表す情景を想像しながら、1、2番を通して歌う。 	<p>○曲や歌詞の内容について気付いたことや感じたことを自由に話し合わせることで、教材への関心やこれからの学習への期待を高めるようにする。</p> <p>○ワークシートを用いて、曲想に関わること、歌詞の内容に関わることを整理できるようにして、旋律や強弱などの音楽の特徴との関わりを捉えやすいようにする。</p> <p>◆音楽の特徴と曲想や歌詞の内容などとの間で関わりがあるもの同士を線で結ばせるなどして、子供が関わりをどのように捉えているかを可視化できるようにしておく。</p>	知	思 ①	態
2	<p>●「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を想起する。 ・「夏の思い出」の前半（1～8小節）を曲にふさわしい歌唱表現となるように学級全体で工夫して歌う。 ・「夏の思い出」の3段目（9～12小節）を曲にふさわしい歌唱表現となるようにグループで工夫して歌う。 ・グループで工夫したことを学級全体で伝え合い、共有する。 ・「夏の思い出」の4段目（13～16小節）を曲にふさわしい歌唱表現となるように個人で工夫して歌い、工夫点をワークシートの楽譜に書く。 ・創意工夫したことを生かして「夏の思い出」を歌い、自分の演奏を、一人一台端末を用いて録音（録画）する。 <p>●本題材の学習を振り返り、学んだことをワークシートに書く。</p>	<p>○歌唱表現の工夫に取り組むことに困難さを感じる子供もいることが予想されるため、学級全体→グループ→個人と段階を経ながら、歌唱表現の工夫に取り組むことができるようにする。</p> <p>○学級全体で取り組んだことを参考にして、グループでの表現の工夫に取り組むよう助言する。ここでは <i>pp</i>、<i>dim.</i> などの強弱記号をどのように表現に生かすかを工夫するよう助言する。</p> <p>○4段目の表現の工夫に個人で取り組む際は、これまでの活動を参考にして、特に最後の2小節をどのように工夫するかを考えるよう助言する。</p> <p>◆各自が録音（録画）したデータを、思②と技の評価材料として補完的に扱う。</p>	技	思 ②	

7. 観点別評価の実際

知識・技能の評価

題材の評価規準 【評価方法】	「夏の思い出」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。 【発言内容、ワークシートの記述】	
評価のポイント	教師は、教材研究と自校の子供たちの実態把握を踏まえて、あらかじめ、子供たちがどのような曲想を感じ取り、音楽の構造として、例えば、旋律や強弱に着目したときにどのようなことに気付くのかを考えておく必要があります。	
「おおむね満足できる」状況（B）と判断する状況	「十分満足できる」状況（A）の例	
「夏の思い出」について自らが感じ取った曲想と旋律や強弱の特徴、歌詞の内容や曲の背景との関わりについておおむね妥当な内容をワークシートに書いている。	「夏の思い出」について自らが感じ取った曲想と旋律や強弱などの特徴、歌詞の内容や曲の背景との関わりについて妥当な内容をワークシートに具体的に書いている。	

知識・技能の評価

題材の評価規準 【評価方法】	創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。【演奏の聴取、行動観察、録音（録画）データ】	
評価のポイント	例えば、最後のフェルマータをどのように表現したいかということに関して、そのことに必要な呼吸の仕方や息の使い方などの技能が身に付いているかを評価することになります。本来は、授業の中で行動を観察したり演奏を聴取したりして評価する観点ですが、録音（録画）したデータを補完的に用いて、授業後に評価を行うことも可能です。	
「おおむね満足できる」状況（B）と判断する状況	「十分満足できる」状況（A）の例	
創意工夫しようとしていることが歌唱表現の中におおむね見て取ることができる程度に技能を身に付けて歌っている。	創意工夫する内容が歌唱表現の中に確実に見て取ることができる程度に技能を身に付けて歌っている。	

思考・判断・表現①の評価

題材の評価規準 【評価方法】	「夏の思い出」の旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。【発言内容、ワークシートの記述】	
評価のポイント	歌唱表現を創意工夫して思いや意図をもつことの前提として、知覚・感受を通して「夏の思い出」の音楽的な特徴を捉えることができているかを評価します。「知識」の内容と往還しつつ学習が展開されることから、一体的に評価を行うことが考えられます。	
「おおむね満足できる」状況（B）と判断する状況	「十分満足できる」状況（A）の例	
「夏の思い出」の旋律、強弱の特徴を知覚した内容と感受した内容（曲想）について、関わりがあるものを1つまたは2つだけ、線で結んでいる。	「夏の思い出」の旋律、強弱の特徴を知覚した内容と感受した内容（曲想）について、関わりがあるものを3つ以上、線で結んでいる。	

思考・判断・表現②の評価

題材の評価規準 【評価方法】	「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。 【ワークシートの楽譜の書き込み、演奏の聴取、録音（録画）データ】	
評価のポイント	思いや意図は、技能を伴って音楽表現として表出できていることが望ましいですが、そうでない場合があることにも留意する必要があります。また、最終的には、 愚 ①と総括することになりますが、 愚 ①と 愚 ②の評価結果が異なる場合は、学習の深まりや向上を考慮して、 愚 ②の結果を優先することが考えられます。	
「おおむね満足できる」状況（B）と判断する状況	「十分満足できる」状況（A）の例	
「夏の思い出」の4段目をどのように歌うかについての思いや意図をワークシートの楽譜に書き込んだり、実際の演奏で表現したりしている。	「夏の思い出」の4段目をどのように歌うかについての思いや意図を具体的にワークシートの楽譜に書き込んだり、実際の演奏で分かりやすく表現したりしている。	

主体的に学習に取り組む態度の評価

題材の評価規準 【評価方法】	「夏の思い出」の歌詞の内容、旋律と強弱との関係に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【行動観察、ワークシートの記述】	
評価のポイント	題材を通して、評価とそれに基づく指導を行った上で、題材の終末に総括します。	
「おおむね満足できる」状況（B）と判断する状況	「十分満足できる」状況（A）の例	
目標に向かって粘り強く取り組んでいる姿が授業中の観察でおおむね把握できる。またはワークシートにそのことがおおよそ分かる内容を記述している。	目標に向かって粘り強く取り組んでいる姿や他者と進んで関わる姿が授業中の観察で把握できる。またはワークシートにそのことが分かる内容を具体的に記述している。	



1. 題材 「音のつながり方の特徴を生かして旋律をつくろう」(学習目標)

2. 教材 My Melody (「中学生の音楽1」p.21～23)

3. 題材の目標

- (1) 音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。
- (2) 旋律、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫する。
- (3) 音のつながり方を工夫して旋律をつくる活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

題材の目標については、「音のつながり方の特徴を、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、それらを生かした創作表現を創意工夫して、旋律をつくる」のように一文で簡単に示すことも考えられます(他の事例についても同様です)。

4. 学習指導要領の内容との関連

A表現(3) 創作 ア、イ(ア)、ウ

〔共通事項〕 ア 音楽を形づくっている要素 リズム、旋律
 イ 用語や記号 和音 ハ長調の音階

5. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。</p>	<p>思 旋律、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態 音のつながり方を工夫して旋律をつくる活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。</p>

●評価規準設定のポイント

創作分野における「知識・技能」の観点において、「知識」については「表したいイメージと関わらせて理解している」としている。創作の学習では、歌唱や器楽の学習のように、学習の最初の段階で、学習の対象となる音楽が存在しないことも考えられるため、子供たちが音のつながり方の特徴、音素材の特徴、構成上の特徴などを理解する際も、自己の内面に生じたイメージと関わらせながら理解できるようにすることが大切だからである。

6. 指導と評価の計画（全2時間）

	●学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ◆学習評価に係る留意点	評価		
			知・技	思	態
1	<ul style="list-style-type: none"> ●「主人は冷たい土の中に」の冒頭部分を参考にして、音のつながり方の特徴を理解する。 ●教科書 p.21 の「Warming up」を用い、音の高さや音の長さに着目して、音のつながり方を確かめる。 ●上行と下行、順次進行と跳躍進行、短い音でつなげたときと長い音でつなげたときにそれぞれどのような感じがするかを教科書にメモし、みんなで話し合う。 ●表したいイメージをもち、音のつながり方を工夫して、I - IV - V - I の和音の動きに合わせて旋律をつくる。 ●I - IV - V - I の和音の動きに合わせて、リズムチャレンジでつくったリズムを打ちながら、つくりたい旋律をイメージする。 ●実際に音を出しながら、試行錯誤して、和音の動きに合う旋律をつくり、教科書のワークシート「イ」に記録する。旋律ができたなら、「ウ」に表したいイメージと工夫した点を書く。 ●本時の学習を振り返って、振り返りシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の図形譜を指でなぞりながら、既習曲「主人は冷たい土の中に」の冒頭部分を歌い、音の高さや音の長さを確認するよう指示する。 ○実際に音を出したり聴いたりして確かめながら考えるように助言する。 ○事前に教科書 p.16、17 のリズムゲーム、リズムアンサンブル、リズムチャレンジを取り扱い、4小節のリズムをつくらせておく。つくったリズムは教科書のワークシート「ア」に書いておくよう指示する。 ○課題や条件を確認する。 ○声に出したり楽器などを使ったりして実際に音を出して確かめながらつくるようにさせる。一人一台端末を活用できるようにするのもよい。 	知	思	態
2	<ul style="list-style-type: none"> ●つくった旋律をペアで紹介し合い、作品を見直して完成させる。 ●2人組をつくり、前時までにつくった作品を互いに紹介し合い、気付いたことや感じたことを伝え合う。 ●伝え合ったことを参考に、つくった旋律を見直し、作品を完成させる。 ●作品（つくった旋律）を学級全員の前で紹介し合い、作品のよさや面白さを共有する。 ●学級全員の前で順に作品を紹介する。 ●他者の作品を聴き、気に入った作品や興味をもった作品について、そのよさや面白さを記録し、発表する。 ●本題材の学習を振り返り、学んだことを振り返りシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表したいイメージは表現できているか、工夫した点に書いていることとつくった旋律は整合しているかなどの視点で互いに聴き合うよう伝える。 ◆工夫した点も書き改めたり、書き加えたりしてよいことを伝える。 ◆演奏の良し悪しは創作の技能の対象ではないことに十分に留意する。 ○子供が、自分でつくった旋律をうまく演奏できない場合は、教師がサポートしたり、他の子供に応援を求めたりしてもかまわない。 ○他の子供の作品について記録するためのシートなどを準備するとよい。 	技		態

7. 観点別評価の実際

知識・技能の評価

題材の評価規準 【評価方法】	音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。 【発言内容、行動観察、ワークシートの記述】	
評価のポイント	旋律、リズムを知覚・感受し、それらの関わりについて考えることと往還しながら理解を図ることが大切なので、実際に音を出して試行錯誤する過程がとても重要です。上行と下行、順次進行と跳躍進行などでそれぞれどのような感じがするかをメモした内容も参考にしてよいですが、イメージと関わらせて理解しているかどうかを評価することから、工夫点として考えたことを主たる評価対象としたほうがよいと思います。	
「おおむね満足できる」状況（B）と判断する状況	イメージと関わらせて音のつながり方の特徴を捉えたと 思われる工夫点をいずれか1つ、発言したり、ワークシ ートに書いたりしている。	「十分満足できる」状況（A）の例
	イメージと関わらせて音のつながり方の特徴を捉えたと 思われる工夫点を2つ以上、具体的に発言したり、ワークシ ートに書いたりしている。	

知識・技能の評価

題材の評価規準 【評価方法】	創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せ などの技能を身に付け、創作で表している。【ワークシートの作品】	
評価のポイント	創作分野における技能は、必ずしも授業中での発表場面に限らず、授業後に子供がつくった 作品を見て評価することも可能です。創作の技能では、課題や条件に沿っているかどうかが大 切なポイントの一つですので、教師は、子供にとって適切な課題や条件を提示することが重要 となります。	
「おおむね満足できる」状況（B）と判断する状況	課題や条件に沿って4小節の旋律をつくり、表したいイ メージや工夫した点と共にワークシートに記録して おり、その旋律が書いている内容とおおむね整合している。	「十分満足できる」状況（A）の例
	課題や条件に沿って4小節の旋律をつくり、表したいイ メージや工夫した点と共にワークシートに具体的かつ正 確に記録しており、その旋律が書いている内容と整合し ている。	

思考・判断・表現の評価

題材の評価規準 【評価方法】	旋律、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したこと と感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっ ている。【行動観察、ワークシートの記述】	
評価のポイント	本題材における「思考・判断・表現」の観点は、第1時の後半から第2時の前半にかけて評価 するように計画しています。第1時後半において、全体的に評価を行い、このままでは「努力 を要する」状況（C）となりそうな子供には適切な働きかけを行った上で、第2時で改めて評 価をするようにします。また、第2時前半のペアでの活動後に、さらに思いや意図を見直したり、 より確かなものにしたりする子供がいることを想定しておくことも大切です。	
「おおむね満足できる」状況（B）と判断する状況	知覚・感受したことを基に、音の高さや音の長さに関し て、いずれか1つの工夫を考えており、思いや意図を他 者に伝えたり、ワークシートに書いたりしている。	「十分満足できる」状況（A）の例
	知覚・感受したことを基に、音の高さや音の長さに関し て、2つ以上の工夫を考えており、思いや意図を具体的 に他者に伝えたり、詳しくワークシートに書いたりして いる。	

主体的に学習に取り組む態度の評価

題材の評価規準 【評価方法】	音のつながり方を工夫して旋律をつくる活動に関心もち、音楽活動を楽しみながら主体的・ 協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。【行動観察、ワークシートの記述】	
評価のポイント	題材を通して、評価とそれに基づく指導を行った上で、題材の終末に総括します。導入において、 教師が、子供の創作の学習への期待感と効力感（できそうだと思う気持ち）をいかに喚起する かということと、途中で、このままでは「努力を要する」状況（C）となりそうな子供には適 切な働きかけを行うことが大切です。	
「おおむね満足できる」状況（B）と判断する状況	粘り強く旋律創作に取り組む、他者の助言なども参考 にして自らの作品を見直している様子が行動観察やワーク シートの記述から把握できる。	「十分満足できる」状況（A）の例
	粘り強く楽しんで旋律創作に取り組む、他者にも進んで 助言を行うなどしながら、自らの作品もよりよいもの にしていこうとする様子が行動観察やワークシートの記述 から把握できる。	



1. 題材「作曲者の思いを感じ取りながら、音楽を味わおう」(学習目標)
2. 教材「ブルタバ (モルダウ)」(連作交響詩「我が祖国」から) スメタナ作曲
(「中学生の音楽2・3下」p.34～36)

3. 題材の目標

- (1) 「ブルタバ」の曲想と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。
- (2) 「ブルタバ」の音色、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠及び生活や社会における音楽の意味や役割について考え、「ブルタバ」のよさや美しさを味わって聴く。
- (3) 標題音楽としての「ブルタバ」の音楽の特徴やその背景となる文化や歴史との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。

4. 学習指導要領の内容との関連

B 鑑賞 (1) 鑑賞 ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)

〔共通事項〕 ア 音楽を形づくっている要素 音色、速度、旋律、強弱

イ 用語や記号 調 *ff* Allegro

5. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知①「ブルタバ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。</p> <p>知②「ブルタバ」の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解している。</p>	<p>思①「ブルタバ」の音色、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。</p> <p>思② 曲や演奏に対する評価とその根拠及び生活や社会における音楽の意味や役割について考え、「ブルタバ」のよさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>態 標題音楽としての「ブルタバ」の音楽の特徴やその背景となる文化や歴史との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

●評価規準設定のポイント

鑑賞領域においては「知識・技能」の観点の中で「技能」は設定しない。また、本題材のように「知識」の指導事項を2つ以上設定している場合は、評価規準を「『ブルタバ』の曲想と音楽の構造との関わり及び音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解している。」とすることも可能であるが、明らかに評価場面が異なる場合には、上記のように**知**①、**知**②と2つに分けて設定することも考えられる。**思**①、**思**②としていることについては、歌唱分野の事例と同様の理由である。

6. 指導と評価の計画（全2時間）

	●学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ◆学習評価に係る留意点	評価		
			知・技	思	態
1	<ul style="list-style-type: none"> ●「ブルタバ」に関心をもつ。 ・冒頭の部分（教科書[A]の部分）を聴き、表している情景などについて自由に話し合う。 ・ブルタバの主題を聴き、オーケストラにより演奏されていることを知る。 ・標題音楽と交響詩について知る。 ・教科書を見て、作曲家による[A]～[G]の標題が付されていることを知り、曲全体の構成をつかむ。 ●この曲の音色、速度、旋律、強弱を知覚・感受しながら、標題（場面や情景）のイメージとオーケストラの楽器の音色、場面ごとの速度の変化、旋律（短調と長調で現れる主題）、強弱の変化などとの関わりについて理解する。 ・[B]～[G]の部分について、聴き取ったことと感じ取ったことをワークシートに書き、それぞれの標題を表すために作曲者がどのような工夫をしているかについて考える。 ・考えたことをグループさらには学級全体で共有し、標題とそれぞれの場面の曲想の変化に着目しながら、全体を通して聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○最初は、曲名など一切知らせずに、自由に情景などを想像しながら聴くようにさせる。 ○主題は多くの子供が知っていることが予想されるので、どのような場面で聴いたことがあるかを考えさせることで、我が国でも広く浸透していることに気付くことができるようにする。 ○これまでに学習したオーケストラの楽器等を想起させる。 ○子供一人一人に音源を準備し、一人一台端末などを活用するなどして、聴きたい箇所を何度も聴き直すことができるようにする。 ◆「作曲者の工夫」という視点を設け、感じ取った曲想がどのような音楽の構造から生み出されているのかを考えることができるようにする。 	知 ①	思 ①	態
2	<ul style="list-style-type: none"> ●「ブルタバ」の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。 ・教科書などを参考にして、曲の背景となる文化や歴史を知る。 ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて気付いたことをワークシートに書き、話し合う。 ●曲や演奏に対する評価とその根拠及び生活や社会における音楽の意味や役割について考え、曲のよさや美しさを味わって聴く。 ・[A]の「ブルタバを表す旋律」と[F]の「幅広く流れるブルタバ」の旋律を比較聴取し、聴き取ったことと作曲者の意図をワークシートに書く。 ・この曲が当時や現代のチェコの人々にとってどのような意味のある音楽であるかを考える。 ・この曲のよさや美しさを味わいながら、全体を通して聴き、批評文を書く。 ・本題材の学習を振り返り、学んだことをワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートの一部は第2時までの宿題として課してもよい。 ○前時に学習した音楽の特徴と関わらせて考えてみるよう助言し、必要に応じて、いつでも音楽を聴いて確かめることができるようにしておく。 ○旋律のみを教師がピアノで演奏するなどして、[A]は短調、[F]は長調であることに気付くことができるようにする。また、調が異なるだけでなくその他の要素も変化していることに気付かせる。 ◆作曲者の創作意図について解釈することから、この曲の意味や役割について考えることができるようにする。 ◆子供の振り返りの記述も補完的に扱う。 	知 ②	思 ②	

7. 観点別評価の実例

知識①の評価

題材の評価規準 【評価方法】	「ブルタバ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 【ワークシートの記述、発言内容、行動観察】	
評価のポイント	子供が感じ取ると考えられる場面ごとの曲想の変化とその変化を生み出している音色、速度、旋律、強弱などの要素について、あらかじめ教師がしっかりと教材分析を行って、予想を立てておく必要があります。また、下に示した判断する基準の「2つ」「3つ以上」などは、指導する学級の実態に応じて決めるとよいです。	
「おおむね満足できる」状況（B）と判断する状況	「十分満足できる」状況（A）の例	
	「B」～「G」の部分の少なくとも2つの部分について、「作曲者の工夫」という視点で、曲想と音楽の構造との関わりとしておおむね妥当な内容をワークシートに書いたり発言したりしている。	「B」～「G」の部分の3つ以上の部分について、「作曲者の工夫」という視点で、曲想と音楽の構造との関わりとして妥当な内容をワークシートに書いたり発言したりしている。

知識②の評価

題材の評価規準 【評価方法】	「ブルタバ」の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解している。 【ワークシートの記述、発言内容、行動観察】	
評価のポイント	ここで評価の対象となる知識は、第1時で捉えたこの曲の音楽の特徴（音楽を介する知識）と、教科書などで学んだこの曲の背景となる文化や歴史（音楽を介さない知識）を関わらせて理解するより高度な知識です。したがって、「知①」と「知②」を総括する際、評価結果が異なる場合は「知②」を優先させることが考えられます。	
「おおむね満足できる」状況（B）と判断する状況	「十分満足できる」状況（A）の例	
	「ブルタバ」の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについておおむね妥当な内容をワークシートに書いたり、発言したりしている。	「ブルタバ」の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて妥当な内容を詳しくワークシートに書いたり、発言したりしている。

思考・判断・表現①の評価

題材の評価規準 【評価方法】	「ブルタバ」の音色、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 【ワークシートの記述、発言内容、行動観察】	
評価のポイント	「知①」に関わる学習の基盤として、「ブルタバ」の各部分について、子供がしっかりと知覚・感受し、関わりについて考えることができるような環境を整えることが大切です。また、この評価結果は、「知①」の評価とおおよそ同じになると考えられます。また、判断する基準の決め方については「知①」と同様です。	
「おおむね満足できる」状況（B）と判断する状況	「十分満足できる」状況（A）の例	
	「ブルタバ」の音色、速度、旋律、強弱について知覚・感受した内容や関わりについてのおおむね妥当な内容を少なくとも2つはワークシートに書いたり、発言したりしている。	「ブルタバ」の音色、速度、旋律、強弱について知覚・感受した内容や関わりについての妥当な内容を3つ以上、ワークシートに書いたり、発言したりしている。

思考・判断・表現②の評価

題材の評価規準 【評価方法】	曲や演奏に対する評価とその根拠及び生活や社会における音楽の意味や役割について考え、「ブルタバ」のよさや美しさを味わって聴いている。【批評文の記述】	
評価のポイント	知識の観点と同様に、「思①」と「思②」についても最終的に総括することとなります。その際、評価結果が異なる場合は、「思②」の結果を優先させることが考えられます。	
「おおむね満足できる」状況（B）と判断する状況	「十分満足できる」状況（A）の例	
	知覚・感受したことを基に、「ブルタバ」のよさや美しさとその根拠及びこの曲の意味や役割について考えたこととしておおむね妥当な内容を批評文の中で記述している。	知覚・感受したことを基に、「ブルタバ」のよさや美しさとその根拠及びこの曲の意味や役割について考えたこととして妥当な内容を詳しく批評文の中で記述している。

主体的に学習に取り組む態度の評価

題材の評価規準 【評価方法】	標題音楽としての「ブルタバ」の音楽の特徴やその背景となる文化や歴史との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 【行動観察、振り返りの記述】	
評価のポイント	鑑賞の学習では、表現の学習以上に、子供が主体的に学習に取り組むことができるような手立てを講じた上で、本観点の評価を行うようにします。	
「おおむね満足できる」状況（B）と判断する状況	「十分満足できる」状況（A）の例	
	「ブルタバ」を鑑賞する学習に取り組み、各時間の目標を達成しようとする姿が授業の中での行動観察や振り返りの記述などからおおむね把握できる。	「ブルタバ」を鑑賞する学習に関心をもち取り組む、他者とも積極的に関わりながら、各時間の目標を達成しようとする姿が授業の中での行動観察や振り返りの記述などから把握できる。

7 | まとめ

1 令和の時代の音楽科教育の方向性

学習指導要領が告示されてから6年、中学校では全面実施から早くも3年が過ぎようとしています。令和の時代の音楽科教育はどのようになっていくのでしょうか。

一言で言うと、これからの音楽科教育が目指している方向性に大きな変更はありません。むしろ、これまでの音楽科教育の成果と課題を次期改訂につなげていく大切な時期にさしかかっているのではないかと思います。人工知能（AI）のめざましい進展などの技術革新により、今後、ますます「感性」や「創造性」などのように芸術教科で大切にしてきたものの価値や意義が高まってくることが予想されます。そのことをしっかりと受け止めて、教科としての音楽を学ぶ意義や価値を私たち音楽科の教師自身がしっかりと考え、そのことを中学生の子供たちにしっかりと実感させることができるような指導が求められているのだと思います。

これまでの優れた実践の蓄積を大切にしながら、これから目指すべきは

- ①音楽科で育成を図る資質・能力の明確化
- ②「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の不断の見直しと質的改善
- ③音楽科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ④音楽科における指導と評価の一体化を図る学習評価の充実

の4点ではないかと考えています。

2 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

上記の①から④の中で、特に③に関しては、学習指導要領に基づいた子供たちの資質・能力の確かな育成に向けて、令和3年1月に中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が示され、同年3月には、「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」が文部科学省から示されるなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」をこれまで以上に一体的に充実させていくという意志が強く感じられます。 [リンク](#)

これまで音楽科教育では、他者と協働しながら学ぶ「協働的な学び」をととても大切にしてきました。一方で、国で示された年間の標準授業時数が第1学年で45時間、第2学年及び第3学年では35時間と少ない中で、1人で多くの子供たちを担当する音楽科教師にとって、子供たち一人一人の学びにしっかりと目を向けることには困難が伴い、「個別最適な学び」の実現には課題があったのではないかと思います。

一人一台端末の普及とICTのめざましい進歩により、子供たちの学習環境も大きく変化しています。音楽科においても、ICT機器を効果的に活用するなどして、「個別最適な学び」を実現し、「協働的な学び」との一体的な充実を図っていくことができればと思っています。

今後、様々な技術革新が進む中で、知性と感性を融合させながら学んでいく芸術系教科・音楽科の果たす役割はますます重要となります。子供たちの創造性を育む教科として、これからの音楽科教育が一層充実することを大いに期待しています。

リンク



- リンク A https://www.kyogei.co.jp/pdf/jh/2023jh_shidou_hyouka_a.pdf
- リンク B https://www.kyogei.co.jp/pdf/jh/2023jh_shidou_hyouka_b.pdf
- リンク C https://www.kyogei.co.jp/pdf/jh/2023jh_shidou_hyouka_c.pdf
- リンク D https://www.kyogei.co.jp/pdf/jh/2023jh_shidou_hyouka_d.pdf
- リンク E https://www.kyogei.co.jp/pdf/jh/2023jh_shidou_hyouka_e.pdf
- リンク F https://www.kyogei.co.jp/pdf/jh/2023jh_shidou_hyouka_f.pdf
- リンク G https://www.kyogei.co.jp/pdf/jh/2023jh_shidou_hyouka_g.pdf
- リンク H https://www.kyogei.co.jp/pdf/jh/2023jh_shidou_hyouka_h.pdf
- リンク I https://www.kyogei.co.jp/pdf/jh/2023jh_shidou_hyouka_i.pdf
- リンク J https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/mext_01542.html

本社 〒171-0051 東京都豊島区长崎1-12-14
TEL:03-3957-1175 FAX:03-3957-1174(代表)

中部支社 〒460-0024 名古屋市中区正木4-8-7 れんが橋ビル8F
TEL:052-678-3151 FAX:052-678-3153

関西支社 〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央1-14-17-601
TEL:06-6943-7245 FAX:06-6920-2170

西部支社 〒751-0808 下関市一の宮本町2-7-14
TEL:083-256-4747 FAX:083-256-1010

2023年12月発行 49124

本冊子は、Web上からもご覧いただけます。

https://www.kyogei.co.jp/pdf/jh/2023jh_shidou_hyouka_susumekata.pdf

